教職員の自己評価に対する第三者評価（学外委員からの評価および提言）

① 自己評価全般について

（1）学校の現状を全体としてとらえた場合、いい方向に進んでいると考えてよいと思われる。

（2）全体としては、先生方の報告内容や雰囲気からも感じ取れる通り、ソフト面、ハード面の両方ともに年々充実してきている。この動向は、校長先生や幹部の方の方針と共に先生方皆さんの努力によるものが大きいと思うが、その中でも人材（先生方）の強化が進んできた結果だと考える。

（3）改革を進めるのに大切なことは今までにない発想や方法を外部から取り入れることが一番大切であり、そのためにも人材の強化は継続して続けることが重要であるが、外部からの人材強化にはハレーションを起こさないための制度やルールを準備する必要もある。

（4）転学などの出学者数が増えていることは気になるところである。教務規定の欠時の扱いに関する見直しの検討がなされているとのことであるが、生徒の多様化が進む中、その検討はぜひ進めるべきである。

② 教育方針・目標について

（1）本校は、東大、京大、医学部医学科を目指す層から専門学校や就職を目指す層まで、また部活動で自分を磨くために入学する生徒など広い層をターゲットとしており、今後も厳しい少子化傾向が続く中、 そのすべての層の生徒の満足度を上げることができれば、多くの入学生を継続的に見こむことができ、その方向性は続けるべきであると考える。そのためには、各コースの特色をより明確にすべきであり、その議論をより進めるべきである。

（2）教職員のアンケート結果の中で、教員の連携に対する自己評価が低い。こうしたことは、本校だけの傾向ではないが、組織的な取り組みを行う仕組み作りが求められている。特に授業改善に向けた検討が必要であると考える。

③ 進路について

（1）国公立大の合格実績が過去最高を更新する見込みとのことで、進学校化がより進んだことはうれしく思う。

（2）難関私立大の合格実績が近年伸び悩んでいると思う。やはり目立つのは関西学院大と関西大の合格実績であるが、30 名、50 名、100 名と合格数を伸ばせる生徒がいるにもかかわらず、成果が出ないのはなぜか。教員レベルの底上げが進んでいないこと、特に授業力が改善していないこと、そして、特定の教員集団のマンパワーで国公立大を中心に実績を積み上げてきたが、そろそろ限界がきたのではないかと感じる。全てを自分たちの力でやるという考えは改めないといけないと思う。

④　生徒指導について

（1）生徒指導における指導件数において、大きく数字が改善されていたのは素晴らしいことである。

（2）現在県内の公立高校で、服装の自由化などの大きな変化がみられると聞いている。必ずしもそれに合わせる必要はないが、そうしたことに対する生徒の考えも調査しながら、公立の動きにも注意を払いたい。

⑤　キャリア・フロンティアや探究について

（1）探究学習等の指導において、大学との連携をより進めることが必要と思われる。県立大学との連携を柱にしながらも、より幅広い連携が今後必要と考えられる。

（2）中高一貫校が始まって以来のキャリア・フロンティアを軸に、社会で活躍することが出来る人材を育成することが、長期的な発展につながると考えている。そのためにも、キャリア・フロンティアが与える影響についての相関関係を具体的に示すことを検討していただきたい。

⑥　広報活動について

（1）広報活動の中で、生徒が主体となってオープンスクールが実施されているとのことであったが、オープンスクールの企画に対して生徒の意見を積極的に取り入れるような試みも行ってもよいように思える。そうしたことが、生徒の学校に対する愛着を育て、探究学習の一環として進めることもよいのではないかと考える。

（2）SNS の更新が増えているとの報告があったが、やはり新しい時代は SNS による発信が大切であると感じた。

⑦　グローバル化に向けての対応について

（1）学校のグローバル化も避けられないと思う。「考えるを学ぶ」という教育方針は、新しい時代に必要な人材像にも重なる。

（2）現在検討中との話があった外国にルーツをもつ生徒の受け入れについては、少しずつでもよいので、その成功事例を積み上げていくことも、将来的には望ましいと考えられる。検討を進めてもらいたい。